いわきセッション

活断層に学ぶ

2011 年 4 月 11 日に、いわき地域で東北地方太平洋沖地震の誘発地震が発生し、市内各地に地表地震断層が出現しました。この活断層についての専門的な研究の成果を公開し、震災をもたらした自然現象についての理解を深め、防災について考える機会にしたいと思います。

講演「活断層調査から分かること」
ー過去を知って、未来を予測するー

日本列島は、プレート境界の近くに位置するため、数え切れないほど多くの地震を経験してきました。そして、これまでの研究の積み重ねから、活断層に沿って内陸の大地震が繰り返し起こってきたことがわかっています。地震は活断層がずれ動くことによって発生するので、地形や地層に何らかの痕跡を残します。そのような過去の地震の痕跡を調べることによって、次の地震の起こる時期や場所とその規模を推定することができます。

日 時 平成27年 **3 月 21 日（土・祝）** ▶
13:30~15:00
（受付 13:00 ～）

会場：**田人ふれあい館　研修室**

見学会「塩ノ平断層を歩く」

いわき地域に現れた地表地震断層では、田人町塩ノ平において上下方向に 2m を超えるずれをもつものがあり、「塩ノ平断層」と名づけられました。この断層の規模や方向そして地形の変化を現地で見学します。

3 月 22 日（日）
9:30~12:30（雨天決行）
（受付 9:00 ～）

集合場所：**田人ふれあい館**
※ふれあい館からマイクロバスにて移動します。

見学地点：**いわき市田人町黒田字塩ノ平を中心とした地点**

講師　宮下由香里氏（独立行政法人産業技術総合研究所　活断層・火山研究部門　活断層評価研究グループ長）

講演会・見学会参加要項および応募方法

平成 27 年 2 月 9 日 (月) より受付開始。
参加費は、講演会のみ・現地見学のみ・2 日間とも参加、いずれの場合も 100 円です。
募集人数 40 名。(募集人数に達し次第締め切らせて頂きます。)
見学会参加については、小学 3 年生以下は保護者同伴といたします。

お申込は、下記の事項を電話、FAX、メールのいずれかでご連絡ください。
○住所 ○氏名 ○年齢 ○電話番号 ○参加希望日 (2 日間とも・講演会のみ・現地見学のみ)

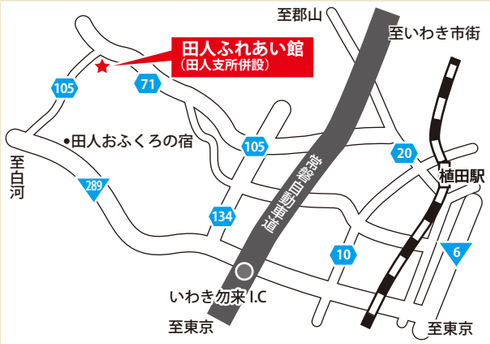
お申込先 (いわき市田人支所 下山田)
電 話 :0246-69-2111　FAX:0246-69-2337
メール :shimoyamada-m@city.iwaki.fukushima.jp

■講師プロフィール

宮下由香里

＜略歴＞1968 年 栃木県宇都宮市生まれ
1991 年 新潟大学理学部地質鉱物学科卒業
1993 年 愛媛大学大学院理学研究科修士課程地球科学専攻修了
1996 年 大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程地球学専攻修了、理学博士の学位取得
1997 年 4 月 科学技術振興事業団科学技術特別研究員として、工業技術院地質調査所（現独立行政法人産業技術総合研究所）地質部勤務
1999 年 7 月 地質調査所地震地質部活断層研究室に採用
2014 年 4 月 産業技術総合研究所に活断層・火山研究部門が発足。同部門の活断層評価研究グループ長となり現在に至る。
＜専門＞古地震学、地質学

■会場のご案内



いわき勿来 I.C. から車で約 20 分

○お問合せ
いわき市田人支所(田人ふれあい館)
〒974-0152 福島県いわき市田人町旅人字下平石191
電話0246（69）2111　　FAX：0246（69）2337

◇ 主　催　ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会・いわき市
後援・協力　田人地域振興協議会

ふくしま震災遺産保全プロジェクト　アウトリーチ事業

震災遺産を考えるⅠ

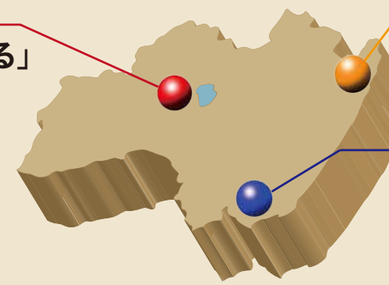
東北地方太平洋沖地震は、福島県内に甚大な被害をもたらし、原発事故も引き起こしました。人命を奪い、建物や街並みを破壊し、膨大な瓦礫を発生させ、震災から 4 年を迎えようとしている現在でも、その傷跡が県内各地に残っています。また避難所や仮設住宅、除染物質の集積など新たなモノ・コトそして非日常の景観を生み出しています。

「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」は震災が産み出したものを、次世代に伝え遺すべき歴史的資料すなわち震災遺産と位置づけて、その保全を図ることを目的に、今年度からフィールド調査や資料を収集する取り組みを始めました。

アウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅠ」ではこのプロジェクトの活動を県民のみなさんに紹介するとともに、震災遺産について関心を高める機会として講演会・報告会・展示会・見学会を県内 3 会場で開催いたします。

ふくしま震災遺産保全プロジェクト　アウトリーチ事業

会津セッション
テーマ「震災遺産を考える」
会　場　福島県立博物館
平成27年3月15日(日)



南相馬セッション
テーマ「南相馬市・双葉郡の震災遺産」
会　場：南相馬市博物館　平成27年2月22日(日)

いわきセッション
テーマ「活断層に学ぶ」
会　場：田人ふれあい館　平成27年3月21日(土)
見学地：田人町黒田字塩ノ平地区ほか
平成27年3月22日(日)

■ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会構成団体

福 島 県 立 博 物 館
南 相 馬 市 博 物 館
富岡町歴史民俗資料館
(公財)ふくしま海洋科学館
相馬中村層群研究会
双葉町歴史民俗資料館
いわき市石炭化石館
いわき自然史研究会

■ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会事務局
福島県立博物館
〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25
電話：0242（28）6000　　FAX：0242（28）5986

文化庁

平成 26 年度文化庁 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業

南相馬セッション

南相馬市・双葉郡の震災遺産

南相馬市・双葉郡で起きた震災・原発事故は風化させてはならない後世に伝えるべき重要な記憶です。津波被災地で瓦礫として撤去されていく生活の記憶や原発事故により放置され朽ち果てていく地域の現状を、いかにして調査・収集し、未来へ残し伝えることができるかを考えます。

日時：平成 27 年 2 月 22 日（日）　9:30 ～ 16:00

会場：南相馬市博物館 ■参加費無料・講演は先着 80 名まで・申し込み不要　資料展示公開無料■

＊常設展観覧料は有料となります

講演

13:30~14:30　　場所：シアター

「災害避難所の記録と記憶」
～新潟県長岡市における東日本大震災避難所資料の保全～

講師 **田中 洋史**氏 （長岡市立中央図書館文書資料室主査）

震災における遺構や流失物が取り壊され瓦礫となり処分されていく今、残すべきものは何なのでしょう？そして震災の記憶を広く集め・残すということとはどういうことなのでしょう。新潟県中越地震・東日本大震災で生まれた避難所の資料の収集・保存活動に携わってこられた長岡市立中央図書館文書資料室の田中洋史さんをお迎えして今後の震災資料の在り方を考えます。

震災資料展示公開

9:30 ～ 16:00　　場所：体験学習室

本プロジェクトの趣旨や活動を紹介するため、津波で流された交通標識・3 月 12 日付けの配達されなかった新聞や折り込み広告・地震発生時に止まった時計など、収集した震災資料や写真パネルの展示を行います。

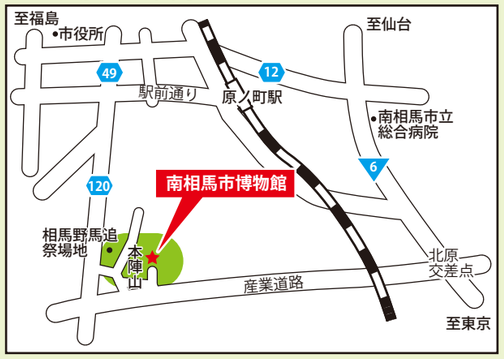
14:45 ～ 15:15　**長岡市立中央図書館 文書資料室 所蔵避難所資料解説会**
解説：田中洋史氏

■講師プロフィール

田中 洋史

昭和47年生、新潟県長岡市出身。新潟大学大学院修了後、長岡市立中央図書館文書資料室嘱託員などを経て、平成21 年 4 月、歴史的文書（郷土史）専門職員として長岡市採用。平成 26 年 4 月より現職。中越大震災を機に「歴史的資料の救済」と「震災関連資料の収集」を二本柱にした災害対応に従事する。東日本大震災発生後、長岡市内に開設された南相馬市避難者避難所の掲示物や日誌などを収集・保存。中越大震災から10 年目の今年度、長岡市が展開する「災害と復興をかたりつぐ」事業の企画・運営を担当する。新潟大学・長岡造形大学非常勤講師。

■会場のご案内



○お問合せ **南相馬市博物館**　〒975-0051　福島県南相馬市原町区牛来字出口194　電話 0244-23-6421　FAX 0244-24-6933

会津セッション

震災遺産を考える

災害史をふりかえった時、そこに残っているのは文書に書かれた情報や映像・画像がほとんどです。今、私たちは東日本大震災を実物資料で伝えようとしています。モノを残すことにどんな意味があるのでしょう。モノは未来に何を伝えてくれるのでしょう。そしてコトとココロを伝えるにはどうしたらよいのでしょう。

日時：平成 27 年 3 月 15 日（日）9:30~16:00

会場：福島県立博物館 ■参加費無料・申し込み不要　資料展示公開無料■

＊常設展観覧料は有料となります

講演　「震災資料を残す意義」 13:40~15:00

講師　**矢田 俊文** 氏（新潟大学人文学部教授，災害・復興科学研究所副所長）

2004 年新潟県中越地震、2007 年新潟県中越沖地震の時の歴史資料保全、また 2010 年資料返還後、毎年山古志で行なう資料整理作業、さらに 2011 年 3 月 11 日東日本大震災以降、福島県から新潟県長岡市内に避難してきた方々の避難所の資料整理作業を長岡市立中央図書館文書資料室と共に行なっている経験を踏まえ、震災資料を残すことの意義を考えます。

日程

報告会（各報告 30 分）　場所：講堂

11:00　開会
11:05　「南相馬・浪江地域の震災遺産」福島県立博物館学芸員　金澤 文利
11:35　「いわき・広野地域の震災遺産」福島県立博物館学芸員　竹谷 陽二郎
12:05　（昼休）
13:00　「富岡町の震災遺産の保全について」富岡町歴史民俗資料館学芸員　三瓶 秀文

講演会　場所：講堂

13:40 ▼ 15:00　演題「震災資料を残す意義」
講師　**矢田 俊文**氏
（新潟大学人文学部教授，災害・復興科学研究所副所長）

震災資料展示公開

9:30 ～ 16:00　　場所：実習室

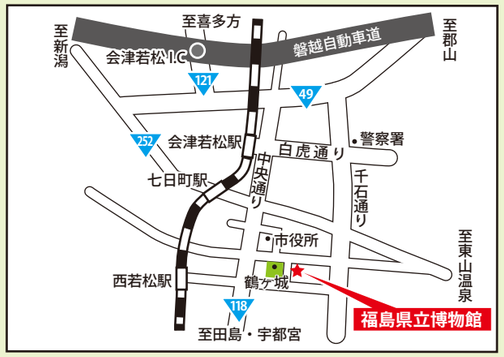
本プロジェクトの趣旨や活動を紹介するため、津波で流された交通標識・3 月 12 日付けの配達されなかった新聞や折り込み広告・地震発生時に止まった時計、避難所で配られた非常食など、収集した震災資料や写真パネルの展示を行います。

■講師プロフィール

矢田俊文

新潟大学人文学部教授，災害・復興科学研究所 副所長。日本中世史・地震史料学。主な著書に『中世の巨大地震』（吉川弘文館 ,2009）、『地震と中世の流通』（高志書院 ,2010）。主な編書に『新潟県中越地震　文化遺産を救え』（高志書院、2005）『震災避難所の史料　新潟県中越地震・東日本大震災』（矢田俊文・長岡市立中央図書館文書資料室共編，新潟大学災害・復興研究所危機管理・災害復興分野、2013）などがある。

■会場のご案内



○お問合せ　**福島県立博物館**　〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25　電話 0242（28）6000　FAX 0242（28）5986